

カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2018年8月4日～2018年8月10日の推移】

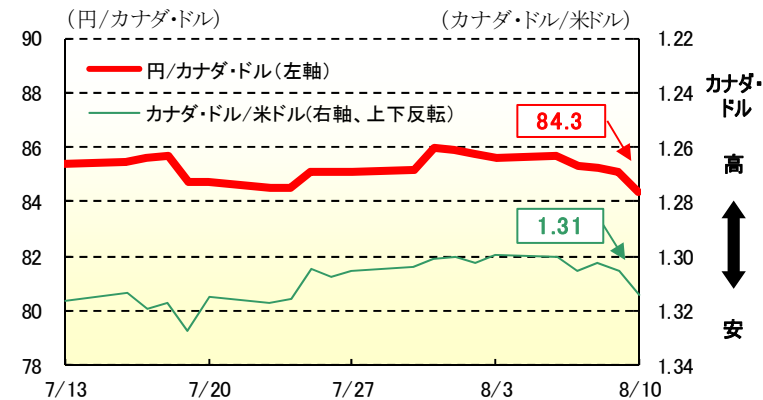
【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円は下落しました。また、カナダ5年国債利回りは低下しました。

トルコが米国人牧師を拘束している問題を発端として、米国とトルコの関係悪化が懸念されたことで、市場でリスク回避姿勢が高まり円が強含む展開となりました。また、先進国では金利低下が優勢となりました。

経済指標では、7月の雇用統計が発表されました。雇用者数の増加が市場予想を大幅に上回る結果となり、カナダの労働市場が引き続き堅調であることが確認されました。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年7月13日～2018年8月10日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

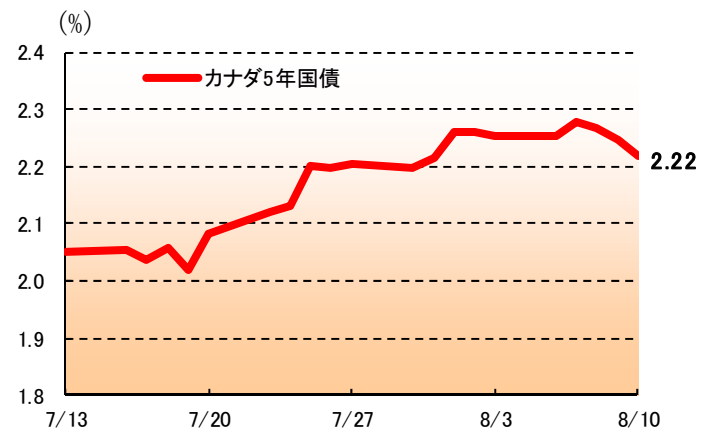
【2】今週の見通し

今週は、経済指標ではCPI(消費者物価指数)などが発表される予定です。市場予想以上にインフレが加速していることが確認されれば、カナダの早期利上げ期待が強まることが想定されます。

NAFTA(北米自由貿易協定)再交渉をめぐっては、米国のトランプ大統領はメキシコとの取引が順調に進んでいると述べる一方で、カナダに対しては厳しい姿勢を維持しており、カナダの自動車に関税をかける可能性にも言及しています。暫定合意に向けて8月中に交渉が進展するか、引き続き注目が集まります。

また、トルコと米国の対立激化を背景とした市場のリスクセンチメント悪化には注意が必要です。

【カナダ 金利推移】 (2018年7月13日～2018年8月10日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>